

# 利賀ダム上流域に新たなアユ資源を造成

## ～「五箇山<sup>(やま)</sup>アユ」による地域振興～

内水面課 主任研究員 野村 幸司

### 1 背景・ねらい

庄川の小牧ダム上流域は海産アユが遡上不可能な地域であり、水産研究所では庄川沿岸漁連と共同で平成30年から五箇山地域において、放流によるアユ資源造成試験を実施してきた。その結果、利賀川においては、アユの餌となる藻類が十分に存在すること、放流したアユが脂質を蓄え大きく成長すること、釣りの対象になることが明らかとなった。今後、当該区域においてアユを漁業権魚種化し、一般の遊漁者に漁場を開放することが視野に入るが、現在利賀川では利賀ダムが建設中であり、ダム湖の湛水や遡上障害による漁場区域の減少が懸念される。

このことから、利賀ダム完成後を見据えたアユ漁場づくり手法を検討するとともに、五箇山地域での新たな地域資源「五箇山（やま）アユ」による地域振興を検討した。

### 2 概要

利賀川ではこれまで毎年1～3万尾のアユを試験放流してきたが、令和5年は4万尾のアユを放流した。このうち、利賀ダム湖に水没しない遡上障害の上流側（上流区）に放流したアユ1万尾は脂鱗を切除した（標識魚）。利賀ダム湖水没予定区域を含む遡上障害の下流側（下流区）には、アユ（無標識魚）を3地点に分け計3万尾放流した。上流区および下流区で友釣り調査を行ったところ、両区域とも既存アユ漁場と同等の釣果が見られ、両区域のCPUE（釣獲尾数／時間・人）および魚体サイズに差は見られなかった（図1）。

利賀川ではアユ放流から約2週間後の5月下旬から6月上旬にかけて大きな増水が2週間程度続いたが、電気ショッカーによりアユを採捕したところ、7月では下流区と上流区の間のアユ採捕数（1㎡当り）に大きな差は見られなかったことから、アユ放流から増水まで2週間程度の期間があれば、アユは下流側へ流されにくいことが示唆された。

10月には多くの大型の産卵を控えたアユが投網で採捕されたが、産まれたアユは小牧ダム上流域では冬を越せず再生産が困難であることから、これらのアユを食品等に利用することで地域振興に繋がると思われる。利賀川で成長したアユは脂質含量が高く、河川下流部で採捕されるアユとは異なった特徴がある。このアユと利賀村産の燻材を使用した燻製を県食品研究所で試作したところ高評価であった。今後、アユが当該区域で漁業権魚種化されれば、「五箇山（やま）アユ」として地域資源化を図ることで、外部からの遊漁者の来訪が増え、飲食、物販、宿泊等での山間部における地域振興が期待される（図2）。

### 3 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター水産研究所 内水面課

担当：野村 幸司

TEL 076-475-0036

(参考) 具体的データ

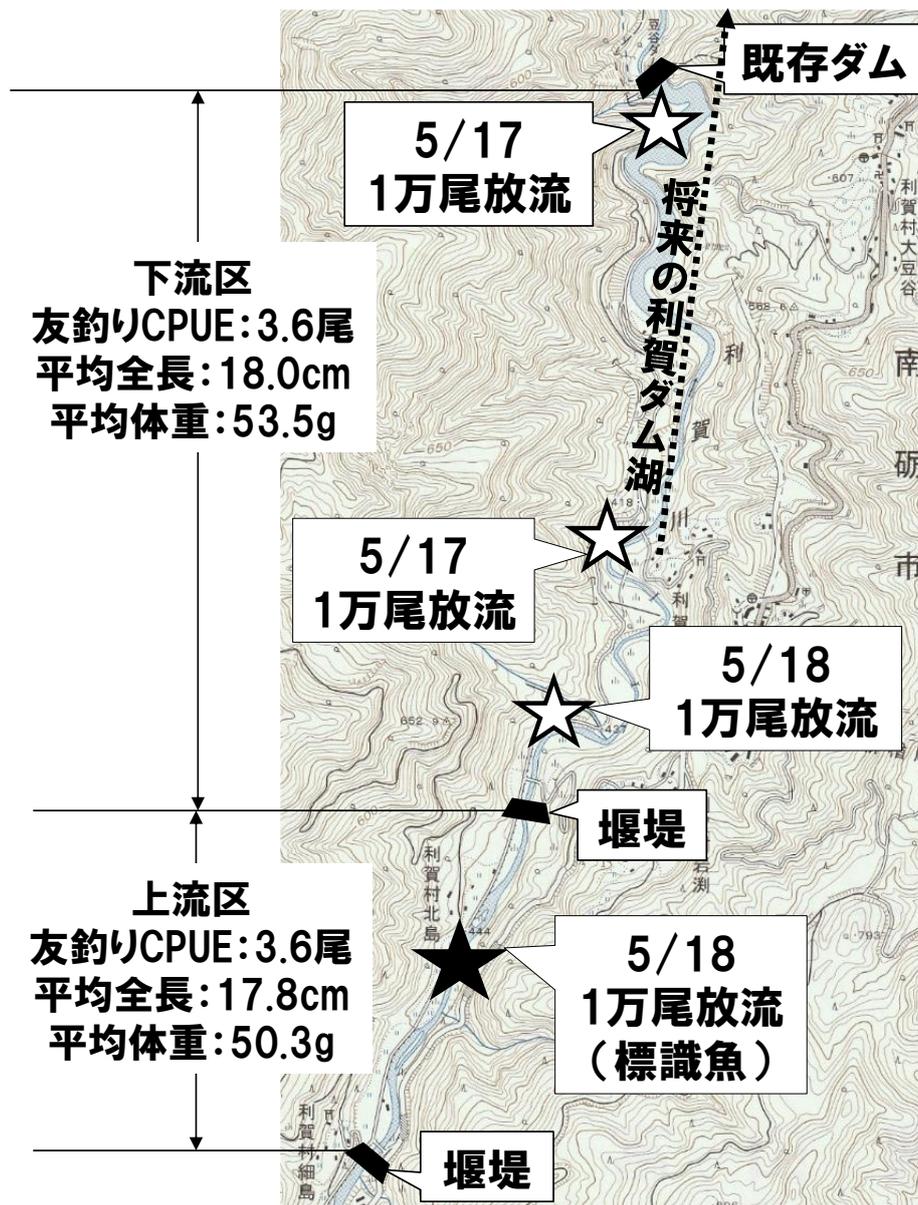


図1 放流地点および試験区別のアユ友釣り CPUE と魚体サイズ

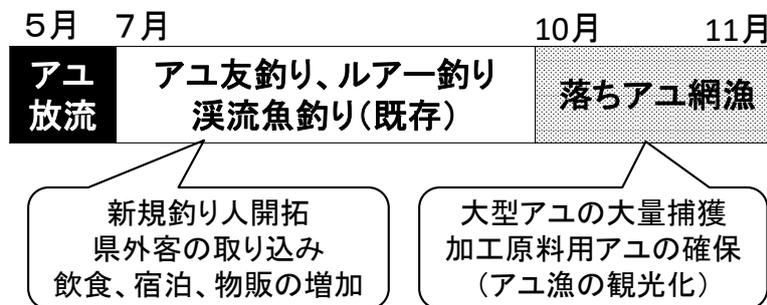


図2 アユ漁場造成後の時期別の活用方策案